

# 根治的化学放射線治療後における Durvalumab 投与の実臨床での検討研究の概要

## 1.研究の対象

当院と共同研究機関において 2018 年 4 月から 2019 年 12 月までの間に、根治的放射線化学療法（CRT）が施行された局所進行肺癌症例

## 2.研究の目的・方法

局所進行非小細胞肺癌のうち根治的照射が可能な症例の標準治療は、化学放射線同時療法(CRT)とされている。化学放射線同時フェーズののちに、地固め化学療法が通常行われてきたが、PACIFIC 試験の結果をもとに、現在では Durvalumab で 1 年間の地固め療法を行うことが標準となった。しかしながら、我が国における症例数は十分でなく情報の蓄積が望まれている。このことから実臨床における、根治的放射線療法後の Durvalumab の使用実績、治療効果・副作用について明らかにするため TOPGAN グループでの症例を検討する

## 3.研究に用いる情報の種類

研究・調査項目：研究対象者について、下記の臨床情報を電子カルテより取得する。

年齢、性別、Performance Status、喫煙歴、既往歴、病期、血液データ、画像所見、病理結果、照射線量、化学療法レジメン、治療効果、毒性

#### 4.外部への情報の提供測定

得られた臨床情報は、がん研究会有明病院にて解析が行われます。データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。本研究で得られたデータを二次利用することが有益であると研究代表者が判断した場合、個人情報を除いたデータを使用する可能性があります。

#### 5.研究組織

国立病院機構 大阪南医療センター

研究代表者： 呼吸器腫瘍内科 工藤慶太

研究責任者： 呼吸器腫瘍内科 工藤慶太

分担研究者 1： 呼吸器腫瘍内科 中島 早希